

2016年11月16日

報道関係各位

株式会社ヴィッツ

Industry 4.0/ Industrial Internet 対応の組込み通信ライブラリ販売開始 ～TOPPERS プロジェクトでの活用を計画～

株式会社 ヴィッツ（本社：愛知県名古屋市、代表取締役社長：服部 博行）は、Port 社（本社：ドイツ ハレ）と販売契約を結び、同社の組込み通信ライブラリの日本国内の販売・サポートを開始します。

またその利用促進のため、これらを TOPPERS プロジェクト（※1）から提供されているリアルタイムオペレーションシステム上で利用可能としていく予定です。

組込み機器向けの通信ライブラリや各種通信プロトコル対応サービスを提供する Port 社の製品・ツールを用いることにより、多様なプロトコルへの対応が可能になり、Industry4.0 / Industrial Internet 対応製品の市場投入までの期間の短縮、コスト低減、品質の向上を図ることができます。

※1：TOPPERS は、ITRON 仕様の技術開発成果を出発点として、組込みシステム構築の基盤となる各種オープンソースソフトウェアの開発・普及を進める NPO 法人です。（<http://www.toppers.jp/>）

1. 背景

近年、工作機械、建設機械、産業用ロボットなどのさまざまな産業機械において、Industry4.0/ Industrial Internet 等の情報連携サービスへのニーズが急拡大しており、複数メーカーによる制御機器が混在する環境で、機器間の相互接続性を如何に確保するかが重要な課題となっています。

欧米で対応が進む Industry4.0/ Industrial Internet は、グローバルな情報連携サービスを構築することでより高い生産性や情報活用を可能にするものです。その実現には、多種多様なフィールドバス系通信プロトコルおよび産業用イーサネット系通信プロトコルを用いて、産業機械の相互接続性を如何に確保するかが大きなポイントとなり、欧米各国の企業はすでにこれらを活用したサービスを提供しています。

一方、国内では複数メーカー製機器が混在する環境での情報連携サービスへの対応が進んでいません。これは、各社各様の通信仕様を活用していることと、各社がそれぞれ独自に複数の通信規格に対応するために多大なコストと時間を必要とすることに起因します。

今後、これらの課題解決には、多種多様な機器間の相互通信接続性の確保と、市場投入期間の短縮やコスト軽減などが求められます。

2. 販売提携契約の内容

当社は Port 社が開発提供する通信ライブラリの販売と日本国内企業への製品導入および技術サポートを実施します。当社は組込みソフトウェア開発やリアルタイムオペレーション開発などを得意としており、当社の技術と Port 社の通信ライブラリとで、Industry 4.0/Industrial Internet 対応を強力にサポートします。

Port 社が提供する産業イーサネット通信ミドルウェアは、当該通信市場の 7 割をカバーしています。同社製通信ライブラリおよび関連ツールを活用することにより、Industry 4.0/Industrial Internet 対応期間を大幅に削減し、かつ、導入コストを 1/5 以下 (※2) に低減することが可能となります。

※2: 対象となるプロセッサ等により価格は異なりますが、当社の実績と一般他社の導入費用と比較した数値です

通信プロトコル	提供可能なスタックライブラリ及びツール
CANopen	<u>ソースコード</u> ・ CANopen Master/Slave Single/Multi Line protocol stack <u>ツール(バイナリ実行モジュール)</u> ・ 設計ツール ・ デバイスマニター ・ CAN メッセージ・プロトコルアナライザ <u>CAN アダプターハードウェア</u>
PROFINET	<u>ソースコード</u> ・ PROFINET Device protocol stack <u>ツール(バイナリ実行モジュール)</u> ・ 設計ツール
EtherCAT	<u>ソースコード</u> ・ EtherCAT Slave protocol stack <u>ツール(バイナリ実行モジュール)</u> ・ 設計ツール
POWERLINK	<u>ソースコード</u> ・ POWERLINK CN protocol stack <u>ツール(バイナリ実行モジュール)</u> ・ 設計ツール
EtherNet/IP	<u>ソースコード</u> 1. PYRAMID Solutions EADK and ESDK 2. Port enhanced OpENER EtherNet/IP Adapter Protocol Stack 3. DLR Extension module to support strictly limited MCU platforms for DLR, using the EADK or the OpENER

3. ソースコード製品のライセンスについて

ソースコードライブラリ製品のライセンスは、「プロダクトライセンス」と「プロジェクトライセンス」の2通りがあり、それにより使用可能なプロジェクト範囲が決まります。いずれが適用されるかは、使用する CPU や OS、派生プロジェクト間のソースコードの共有率等の条件により決定されます。

ソースコードの使用・コピー・改変は使用が許諾された法人内で開発に従事する従業員のみ限定されますが、ライセンス物の一部または全部を含むプロジェクト全体のオブジェクトコード／バイナリコードは制限なくコピー・配布・使用することができます。

■Port 社（本社：ドイツ ハレ）CEO Dietmar R. Franke 氏のコメント

We are very delighted that we are able to start the sales of the industrial communication solutions in Japanese market. Witz has a lot of experience and achievements in the field of embedded software platform and functional safety. We expect that our industrial communication solutions will be used more and more in the Japanese market in collaboration with Witz.

（我々は産業用通信ソリューションの日本市場での販売開始を嬉しく思います。ヴィッツは、組み込みソフトウェアプラットフォームや機能安全分野で多くの経験と実績があります。我々は、ヴィッツとのコラボレーションにより日本市場でより多く我々の産業用通信ソリューションが利用されることを期待しています。）

■オークマ株式会社（本社：愛知）常務取締役 家城 淳 氏のコメント

当社は、業界唯一の機・電・情・知の融合技術を持つ強みを活かし、自社製 CNC 装置を搭載した高精度生産性を追求した NC 旋盤、マシニングセンタ、複合加工機を開発・製造・販売しております。そして、ドイツの「Industory4.0」や米国の「Industrial Internet」など、国を挙げて次世代のものづくりを推進する中、自社製 CNC 装置「OSP suite」を中核にスマートマニュファクチャリング、スマートファクトリーを提案しています。

スマートマニュファクチャリング、スマートファクトリーの要は、生産に関わる全ての機器を接続してインターオペラビリティ（相互運用性）を向上させることです。しかし、ご存知のとおりデバイスメーカーは各種各様の接続プロトコルで個々に構築してきた経緯があり、相互接続に対応するに多大の労力と費用が必要です。

今回、当社の関係企業であるヴィッツが port 社製品を扱う販売提携を結んだことは、日本のデバイスメーカー製品の相互接続性を容易にし、IoT が拓く日本の次世代のものづくりに大いに貢献しうるものと確信しています。

【お問い合わせ先】

本発表に関するお問い合わせは、以下にお願いします。

株式会社ヴィッツ

総務部：脇田、佐藤（技術的内容：応用技術部 和田）

TEL: (052) 220-1218